子ども用

伝道地便り

２０１８年 第３期　北アジア太平洋支部

第１話「学生のための祈り」　日本

第２話「霊に苦しめられる」　日本

第３話「おじいちゃんのための暗唱聖句」　日本

第４話「いくちゃんの聖書への挑戦」　日本

第５話「キリストへの讃美」　韓国

第６話「不幸な一年生」　モンゴル

ADVENTIST MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団　伝道局　安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

1）前もって何度か目を通し、自信を持って読む。

2）棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。

3）伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。

4）誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。

5）できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。

6）時には、スキット（寸劇）風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。
主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」
紹介しましょう。

１. 学生のための祈り　　日本

栗原さんと奥さんは１年に２回、韓国と日本をフェリーで行き来していました。

栗原さんは日本人ですが、韓国で先生として働いていたのです。お休みのたびに、栗原さんと奥さんは故郷の日本にフェリーで帰ってきました。

フェリーに乗ると、いつも韓国と日本の間にある大きな島の横を通ります。その島にはたくさんの木々や美しい山々がありました。そして栗原さんは思ったのです。「この島の人々はイエス様を知っているのだろうか？」

栗原さんは、この島が対馬と呼ばれる日本の島であることを知りました。そして、対馬にはセブンスデー・アドベンチスト教会員が一人もいないことも知ったのです。彼は宣教師になってイエス様のことを伝えたいと思いましたが、心配なことがありました。「私たち夫婦はどうやって生活していけるだろうか？」と考えたのです。

でも、毎朝のディボーション（お祈りをして聖書を読むこと）で聖書を読んでいると、島に移っても神様が助けてくださるという約束を見つけたのです。栗原さんが特に好きになった聖句はフィリピ４章 19 節で、「わたしの神は、御自分の栄光の富に応じて、キリスト・イエスによって、あなたがたに必要なものをすべて満たしてくださいます」とあります。

栗原さんと奥さんはグローバル・ミッション・パイオニアとして開拓伝道者になろうと決心しました。グローバル・ミッション・パイオニアとは、まだアドベンチストがいない場所に住み、そこで伝道する特別な宣教師のことです。二人は対馬に引越し、栗原さんは子どもたちのために無料の英語学校を始めました。

たくさんのお父さんお母さんが、子どもたちに英語を勉強してほしいと思っていました。しかも、授業料は無料です。でも、お父さんお母さんたちは栗原さんの英語学校に子供たちを行かせるのを怖がっていました。いったいなぜだと思いますか？

[子どもたちが考える時間を持つ]

みんなが怖がっていた理由は、今までクリスチャンに会ったことがなかったからでした。栗原さんはお父さんお母さんに自分がクリスチャンであること、英語のクラスでは毎回お祈りすることを伝えていたのです。そして栗原さんの第１回目の英語クラスに来た生徒は、たった２人だけでした。

でも、しばらくするとクラスにやって来る子ども達の数はだんだん増えていきました。みんな栗原先生が大好きになったのです。栗原さんはとても親切で、素敵な笑顔をもつ先生でした。そして、子ども達はクラスで聞ける聖書物語も気に入ったのです。

ある日、栗原先生がイエス様にお祈りしたことを一人の生徒が母親に話しました。その母親は栗原さんがクリスチャンであると知らなかったので、とても怒りました。その母親は娘に英語のレッスンへ行かないよう、伝えました。

そして、他の保護者たちにも、栗原さんのあることないことを言い始めました。その結果、すべての保護者が子どもたちを英語のクラスに行かせなくなりました。

栗原さんが翌日、英語を教えるためにクラスに行くと、教室には誰もいませんでした。栗原さんは悲しくなりました。彼は、生徒が一人もいないので、どうして神が自分を宣教師にしてくださったのかわからなくなりました。栗原さんは道で子どもたちを見かける時、さらに悲しくなりました。以前は笑顔で手を振ってくれていた子どもたちが、今では不安そうな顔になり、走り去るようになってしまったからです。

栗原さんは神様に助けを祈り求めました。「神様、もしこの働きがあなたの御心ならば、英語学校に生徒を送ってください」

３か月過ぎても、誰も来ません。栗原さんはさらに祈り続けました。

それからある日、一人の生徒が英語学校に戻ってきました。栗原さんはとても嬉しくなりました。それから二人の生徒たちも戻り、結果として、すべての生徒が英語学校に再び来るようになりました。それは奇跡的なことでした。

栗原さんは子どもたちが戻るように説得をしたりしませんでした。彼はただ祈り、神が祈りに応えてくださるのを忍耐強く待っていたのです。私たちが祈り、忍耐強く待つ時、神はあらゆる奇跡を起こすことが出来るお方なのです。

私たちが 13 回献金を捧げる時、栗原さんのようにイエス様を他の人々と分かち合う宣教師の働きを助けているのです。神様に、栗原さんを祝福してくださるよう祈りましょう。そのようにするなら、対馬の多くの子どもたちがイエス様を知るようになるのです。

【始め栗原さんは宣教師になることを計画していませんでした。彼はパイロットの資格を持っていたので、空を飛び回る宣教師になろうと思っていましたが、神は別の計画を持っておられました。栗原さんがクラスで紙飛行機を飛ばしている様子をご覧ください。】
bit.ly/praying-for-students1

宣教メモ

- 日本はアジアの一番東側にある、島々の列島から成り立っています。日本には、北海道、本州、四国、九州といった大きな島があり、4 千近くの小さな諸島もあります。

- 三層の構造プレートである地殻が日本に接近し、よくぶつかりあうため、地震が度々起こります。毎年、1,000 以上の地震が日本で起こります。また、約 200 もの火山があり、その内、60 は活火山です。

- 日本料理では、お米や魚、野菜が使われますが、肉はあまり使われません。低脂肪で、乳製品も少ないため、とても健康的な食生活であり、世界的に比べても、他の地域より、比較的長生きする理由がここにあります。

- 相撲は日本の国技です。相撲競技で勝つためには、敵を土俵の外に投げ出すか、足より下まで、体の一部が地面に触れるようにします。

２．霊に苦しめられる　　日本

中村さんという、日本の対馬に住むおばあさんはとても不幸でした。

中村さんは頭痛持ちで、奇妙なことが彼女の周りで起こっていました。彼女の耳の中でいつも「プス、プス、プス」と囁（ささや）く声が聞こえていました。しかし、周りを見渡しても、誰もいません。時々、彼女は家の中で知らない人が歩いているのが見えましたが、夫に伝えても、夫には見えませんでした。

中村さんは占い師に助けを求めました。占い師とはどういう人でしょうか。

[何人かの子どもたちが答えるのを待つ]

占い師は未来を予測したり、病気を癒やすことをします。しかし、本当の将来を伝え、病気を癒やせるのは神様だけです。

中村さんは占い師にたくさんのお金を支払い、頭痛を治してもらい、目に見えない人が耳の中で囁（ささや）くのを止めてもらいたいと思いました。しかし、占い師は治すことができませんでした。

ある日、中村さんは近所の人から、天の神様を礼拝する人が対馬に来たことを聞きました。彼女はその人だったら治してくれるかもしれないと思いました。そして、中村さんはセブンスデー・アドベンチストの宣教師である栗原さんの家を訪ねることにしました。栗原さんご夫妻は対馬に引っ越してきたばかりでした。その夫妻は島で唯一のアドベンチストだったのです。

栗原さんは中村さんを家に招き、彼女の悩みを聞きました。彼女は長い間、悪霊に悩まされ、占い師の所に行っても、悪霊を追い出せなかったことを話しました。彼女はどうしたらよいかわからず、栗原さんに助けを求めたのです。

中村さんが栗原さんの家を訪ねたのは、安息日の朝でした。その島には、他に誰もアドベンチスト教会員がいなかったため、アドベンチスト教会がまだありませんでした。栗原さんは妻とアメリカから訪ねてきた二人の友人と共に家庭礼拝を捧げていました。

そこで、栗原さんご夫妻と二人の友人は中村さんを取り囲み、輪になってひざまずき祈りました。「愛する神様、多くの問題を引き起こしている悪霊を、この女性から取り去ってください。イエス様の御名によってお助けください。アーメン」と一人が祈りました。

祈りが終わると、中村さんは驚きの叫びをあげました。「霊が取り去られました！今、私の頭から何かが取り去られるのを感じたのです！私は解放されました！」

中村さんは次の安息日にもまた、栗原さんの家にやってきました。彼女は彼らと聖書を学び、イエス様を知らない人々を悪霊が苦しめることを学びました。彼女は悪霊に悩まされたとき、イエス・キリストのお名前によって祈る必要があることを知りました。栗原さんは彼女に「イエス・キリストのお名前によって命じる。私から出て行け」と祈るよう、教えました。

悪霊は二度と中村さんを悩ませることはありませんでした。

数か月後、彼女はイエス様に心を捧げ、バプテスマを受けました。中村さんは島で最初のアドベンチスト信者になったのです。

宣教師である栗原さんは、中村さんのバプテスマをとても喜びました。彼はこのように述べています。「私たち夫婦がこの島に来たのはこのためだったのです。私たちは天におられるイエス様と人々が一緒に住めるよう、備えるために来ました」

私たちは 13 回献金を捧げることで、人々がイエス様と一緒に住めるよう、備える手伝いが出来ます。その献金によって、世界中の人々にキリストを伝える宣教師を助けられるのです。あなたの心からの献金を感謝します。

宣教メモ

- 神道は日本で最大の宗教であり、人口の 80%もの人が宗教的儀式を行っていますが、調査では、自らを神道だと認識している人はごくわずかです。

- キリスト教が日本に初めて伝えられたのは、1549 年、イエズス会の宣教師によるものでした。今日、人口の1～2．3%の人がクリスチャンです。

- 日本教団には、東日本教区、西日本教区と沖縄教区があります。

- 日本には 97 の教会があり、15,151 名の信徒がいます。全人口が 1 億 2,5,31 万人なので、8,270 人に一人がアドベンチスト教会員となります。

３. おじいちゃんのための暗唱聖句　日本

栗山そうたくんは日本に住む 10 歳の少年です。

栗山くんは学校で友達と遊ぶのが大好きです。また、放課後にはバドミントンをするのが好きです。しかし、一番好きなことは、暗唱聖句です。なぜだと思いますか？

[子どもたちが考える時間を持つ]

栗山くんは、彼のおじいさんが病気にかかって死にそうになった時から暗唱聖句を始めました。栗山くんは脳卒中で倒れたおじいさんのために家族と一緒に神様に祈り、おじいさんは助かりました。しかし、以前のように話すことはできなくなりました。話そうとすると、舌が回らず、とてもゆっくりしか話せないのです。おじいさんが何を言っているのか理解することが難しくなりました。

そこでおばあさんが良いことを思いつきました。おばあさんはおじいさんに、毎週安息日まで覚える暗唱聖句を覚えることを提案したのです。しかし、おじいさんはとても頑固な人でした。覚えるのが難しかったため、暗唱聖句を覚えたくありませんでした。

そこで、孫のそうたくんがおじいさんの家に来た時、おばあさんはそうたくんを呼んで、「そうた、大人用の安息日ガイドの今週の暗唱聖句を覚えてみない？」と尋ねました。

そうたくんには出来るかわかりませんでした。大人用の暗唱聖句は子ども用の暗唱聖句より長かったからです。しかし、そうたくんは「面白そう。挑戦してみていい？」と答えました。

おばあさんは暗唱聖句を紙に書き写し、そうたくんはその紙を持って帰りました。安息日の朝、おばあさんは、そうたくんに暗唱聖句を覚えられたか聞いてみました。そうたくんは暗唱聖句を完璧に覚えていました。おばあさんはとても喜びました。そして、おばあさんも暗唱聖句を覚えてきていたのです。

おばあさんはおじいさんと一緒に、そうたくんを大人の安息日学校へ誘いました。安息日学校の分級前に、先生が暗唱聖句を覚えたか皆に尋ねます。そうたくんが手を挙げると、先生は彼にマイクを渡しました。

そこにいた大人たちは彼が暗唱聖句をしていることにとても驚きました。そうたくんのおじいさんも喜びましたが、何も言えませんでした。

翌週、そうたくんはその週の暗唱聖句を暗記しました。安息日学校では、先生が再び、暗唱聖句をしてきた人について尋ねると、そうたくんはまた手を挙げました。ところが、手を挙げたのは、そうたくん一人だけではありませんでした。そうたくんのおじいさんも手を挙げたのです。そうたくんのおじいさんは孫が大人の暗唱聖句を覚えたことにとても感動し、自分でも覚えてきたのです。

次の安息日も、またその次の安息日も二人は同じように覚えてきました。そうたくんとおじいさんは二人して、安息日学校の暗唱聖句を覚えるようになりました。

おじいさんは暗唱聖句を覚えていくにつれ、話すのもスムーズになっていき、少しずつ話せ

るようになっていきました。

おじいさんはまだ、あまりたくさん話すことはできません。孫のそうたくんが暗唱聖句を覚えるようになったことについて、話したことはありません。しかし、おばあさんも教会員もみんなとても嬉しそうです。教会の大人たちは毎週、栗山くんが暗唱聖句を発表するのを楽しみにしています。

また、教会員はみんな、そうたくんのおじいさんが前より話せるようになったことを喜んでいます。

だからこそ、そうたくんは好きなゲームやバドミントンをするより、暗唱聖句をすることが好きなのです。暗唱聖句をすることで、おじいさんの助けになるからです。

私たちが誰かを助ける時、その人を愛し、私たちの神への愛を表すようになるのです。どうやって他の人を助けることができるのでしょうか。一つの方法は、みんなが神様のことを知ることができるようになるために、13 回献金を捧げることです。

【栗山そうたくんがペトロへの手紙 I の暗唱聖句をしている様子を見てみましょう。】
bit.ly/memorizing-for-grandfather

４. いくちゃんの聖書への挑戦　　日本

いくちゃんは日本に住む 12 歳の女の子です。

いくちゃんが 1 年生になった時、おばあさんは特別に聖書をプレゼントしました。

いくちゃんは新しい聖書をとても気に入りました。開いたり、読んだり、難しくてわからない言葉があっても、自分の聖書があることがとても嬉しかったのです。

大きくなっても、いくちゃんは聖書を読み続けました。5 年生になったある日、「聖書を全部読めないかな」と思うようになりました。読めない理由が見つからなかったので、いくちゃんは 1 年かけて、最初から最後まで聖書を読むことに決めました。

しかし、どうやったら 1 年間で聖書全部を読み終えるのかわかりませんでした。そこで、はじめに、聖書全体で何章あるか、数えてみることにしました。

[子どもたちに聖書に全部で何章あるか尋ねてみてください]

いくちゃんは、聖書には全体で 1189 章あることを知りました。そこで、1 年で読むには、毎日 3 章、安息日に 5 章読めばよいことがわかりました。

いくちゃんは、いつ聖書を読めるだろうかと考えました。5 年生になり、宿題がたくさんあるので、放課後にはあまり時間が取れません。お母さんに、学校に行く前の朝の時間に読むといいと教えてもらったので、イエス様と一緒に一日を始めるために目覚まし時計を 5 時にセットしました。

いくちゃんは朝早く起きることが苦手でした。家族みんな、まだ眠っているし、外はまだ暗いからです。しかし、1 年で聖書を読みたかったので、ベッドから飛び起きしました。

いくちゃんは次のように祈りました。「愛する神様、読んでいる聖書の内容がわかるように助けてください」

そして、聖書の最初の書から読み始めました。

[聖書の最初の書が何であるか、子どもたちに聞いてみてください]

そうです、聖書の最初に書かれてあるのは、創世記です。

いくちゃんは毎朝、5 章読むのに 30 分あれば読めることに気づきました。そのことに気づき、1 年以内で聖書すべてを読んでしまいました。

いくちゃんは「聖書って面白い！もう一回、聖書を読んでみたいな」と思いました。そこで、いくちゃんは 6 年生になってもう 1 回、1 年かからずに聖書を読み終えました。

いくちゃんが聖書を読むようになってから、素晴らしいことが起こり始めました。いくちゃんが変わり始めたのです。安息日学校の暗唱聖句だけでなく、他の聖句も覚えられるようになりました。

いくちゃんは笑顔が増え、明るくなりました。みんながいくちゃんのことを好きになっていったのです。

いくちゃんのお姉さんで 14 歳のななさんは、今では家族の誰よりも、いくちゃんが安息日の

お話を理解していると話しています。
　いくちゃんの妹、みこちゃんはお姉さんのいくちゃんのようになりたくて、聖書を読み始めました。
　いくちゃんの好きな書はローマの信徒への手紙です。「ローマの信徒への手紙には良い聖句がたくさん書かれています」と話しています。
　いくちゃんの好きな聖句は、ローマ 8 章 38、39 節で、次のように書かれています。
「わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです」
[子どもたちに好きな聖句を尋ねてみてください。それから、聖書を全部読んでみたいか聞いてみてください]

　いくちゃんは聖書すべて読むことは難しくないと言います。秘訣は毎日少しずつ読むことです。「少しずつでも聖書を毎日読んでみませんか？」と言っています。

宣教メモ
- 日本の識字率はほぼ 100%です。

- 古来、日本では、女性の白い歯は醜いと考え、歯を黒く染めました。その習慣は 1800 年代後期まで続きました。

- 日本には「三育」という名前のついた幼稚園が3か所、小学校が 10 校あります。三育は三つを育てるという意味があり、知・徳・体を育てるという意味です。

5. キリストへの讃美　　韓国

ジョンジェは韓国に住む 57 歳のホームレスの男性です。

彼には仕事も車もありません。いつも韓国の首都ソウルの駅のコーナーで他のホームレスの人たちと一緒に寝ています。

ジョンジェはあまり多くの物を持っていませんが、大切な物をわずかばかり持っています。それはスピーカーとマイクです。彼は住んでいる所でクリスチャン音楽を聞きたかったため、お金を貯めて、購入しました。彼はイエス様を賛美する音楽が大好きなのです。

ある日、スピーカーから音がうまく出なくなってしまいました。ジョンジェは線をつないていると、女性の声が聞こえてきました。

「何をしているのですか？」とその女性が尋ねました。ジョンジェは「クリスチャン音楽を聞くのが趣味なので、スピーカーを直しているところです」と答えました。

「私もクリスチャン音楽が大好きです。私は歌うこともできますよ。イエス様への賛美をすることが大好きなのです」とその女性は答えました。

ジョンジェはスピーカーを直すと、その女性にマイクを手渡しました。その女性は美しい歌声でイエス様が少女を癒したことを歌いました。

[子どもたちにイエス様がタリタ・クミ＝少女よ起きなさいといって癒された物語を知っているか、尋ねてみてください。マルコ 5 章でイエス様に助けられた 12 歳の少女の話です]

ジョンジェは神への畏(おそ)れと共にその歌声を聞きました。すると、周りに人たちが集まってきていました。その女性が歌い終わると、ジョンジェは「あなたの歌声を毎日聞きたい」と伝えました。

ウンスクという名前のその女性は、翌週もその場所に来てジョンジェのマイクとスピーカーを使って多くの賛美をし、5 か月間、毎週水曜日に賛美してくれました。

しかし、駅にいた何人かの人たちが彼女の歌を快く思わず、ジョンジェにスピーカーを通して歌わないように言ってきました。ジョンジェは彼女の歌声がとても好きだったので、とても悲しくなりました。しかし、問題を起こしたくなかったので、ジョンジェはウンスクにスピーカーを使わないで歌うよう、伝えました。

ウンスクはガッカリしました。彼女は賛美によって多くの人々を助けていることを知っていたからです。彼女は新しいスピーカーとマイクを買うために、フェイスブックを通じて、起こった出来事を友人たちに伝え援助を募りました。すると、世界中のアドベンチストの知り合いが彼女の投稿を見て、彼女にお金を送ってくれたのです。まもなくして、ウンスクは新しい自分のスピーカーを持って駅に戻ってきました。

たちまちウンスクは駅のコーナーで人気者になりました。人々は毎週、彼女の賛美を楽

しみに待つようになったのです。歌を聞いた人たちはイエス様のことをさらに知りたいと願うようになり、彼女は近くのアドベンチスト教会を紹介しました。ウンスクのおかげで、今ではたくさんの人たちがイエス様を愛するようになりました。ある男性は、彼女の歌声を聞いて涙を流しました。その人はかつてクリスチャンでしたが、神様を信じられなくなり、仕事も失っていたのです。しかし、その人はウンスクの歌声を聞き、神様が自分に語りかけているかのように感じました。その後、彼は再び教会に行き始めるようになったのです。教会に行き始めるようになったもう一人の男性は耳の聞こえない男性で、ウンスクが歌っている様子を見て、彼女に「教会に行きたいので、どこか良い教会を教えてもらえますか」と聞いてきました。

ウンスクは驚きました。耳の不自由な男性は彼女の歌声を聞くことが出来ないにもかかわらず、イエス様のことを知りたいと願ったからです。その耳の不自由な男性は、今では毎週、安息日に教会に通っています。

ホームレスのジョンジェには何が起こったでしょうか。ジョンジェはウンスクにスピーカーを貸さなかったことを後悔し、彼女が歌う時、ボディーガードのように近くで彼女を守るようになりました。彼は今ではとても幸せです。なぜだかわかりますか。ジョンジェは一番近くでイエス様を賛美する美しい歌声を聞けるからです。

ウンスクは賛美することでイエス様への愛を表しました。

あなたはどうやってイエス様への愛を表しますか。

[子どもたちの反応を待ってください]

みなさんもウンスクのように、イエス様への賛美を歌にして捧げることができます。お父さんお母さんやお友だちを助けることもできます。

遠く離れた国の人たちがイエス様のことを知ることができるように、13 回献金を捧げることができるでしょう。みなさんの献金を感謝します。

【下記のリンク先から、ウンスクが賛美している『タリタ、クミ』の歌声を聞くことが出来ます】
bit.ly/singing-for-Jesus

6. 不幸な一年生　　モンゴル

アイベルはモンゴルに住む10歳の少年です。

彼が5歳の時、モンゴルからフィリピンへと引っ越しました。アイベルのお父さんはフィリピンのアドベンチスト大学で勉強することになったからです。

アイベルも学校に入ることになり、彼の両親はアイベルを1年生に入学させました。

そこでの学校生活はアイベルにとって、とても大変なものでした。先生も児童たちもみんな、英語で話していたのです。アイベルはモンゴル語しか分からず、英語は全く理解できませんでした。放課後、男の子たちはアイベルをからかい、一人の少年は「おまえ、何にもできないじゃないか。」と言い、もう一人の少年は「書くことさえできない。幼稚園に行けよ。」と、言いました。

そのような心ない言葉に傷ついたアイベルは学校に走って戻り、クラスのドアのかげに隠れました。アイベルは他の子の前で泣きたくなかったからです。

彼が家に戻った時、母親は「今日、学校はどうだった？」と聞きました。

アイベルはお母さんに心配をかけたくなかったので、本当のことは言わず、「学校は楽しかったよ」とだけ言いました。

[子どもたちにアイベルは正しいことをしたかどうか、聞いてみてください。
子どもたちに「たとえ良いことだと思っても、親に嘘をついてはいけない」と伝えてください]

その夜、アイベルは眠る時、神様に助けてもらえるよう、ひざまづいて祈りたい気持ちになりました。しかし、お母さんに祈っているところを見られたら、何を祈っているのか尋ねられるかもしれないと思いました。そこで、アイベルは両親が眠りについた真夜中に起き、静かに神様に祈りました。

「どうか、クラスメイトが優しくなって、友達になれるようにしてください。そして、どうか他の学校に行けるようにしてください」と祈りました。

アイベルは7か月間、毎晩、このように祈りました。そして、彼の両親は突然、彼を違う学校に入れることにしたのです。新しい学校の児童は優しい人たちばかりでした。彼らはアイベルが英語を話せるよう、手伝ってくれました。アイベルがサッカーをして足を痛めた時、家に帰れるように友達が助けてくれました。

アイベルは新しい学校に行けるようにしてくださいというお祈りを神様が聞いてくださったことをとても喜びました。

ある日、前に通っていた学校の校長先生が、学校のパーティーにアイベルを招待してくれました。アイベルは、昔、意地悪くしてきたクラスメイトに会うのが少し恐くなりました。

ところが、パーティーに行くと、クラスメイト達は一緒に遊んでくれて、とても楽しい時を過ごしました。神様はそのクラスメイト達とも友達になれるようにという祈りを聞いてくださったのです。

アイベルは今、5 年生になり、今ではモンゴルに戻っています。しかし、神様が祈りに応えてくださったことは忘れていません。彼は学校での問題を祈る前は、神様に祈ったこともなく、神様は本当におられるのか不思議に思っていました。

「ぼくは毎週、安息日に教会に通っていたけど、『神様はどうやって言葉だけで世界を造ることができたんだろう』と不思議に思っていました。神様が祈りに応えてくださり、神様は現実におられる方なんだとわかりました」とアイベルは話しています。

アイベルはモンゴルにたくさんの友人がいますが、彼らの多くは神様のことを知らない家族の中で育っています。今期の 13 回献金は、モンゴルに新しい学校をつくり、もっと多くの子どもたちが神様について知ることができるように使われます。みなさんのご協力を感謝します。

【下記のリンクより、アイベルの短い動画をご覧ください。】

bit.ly/unhappy-first-grader

宣教メモ

- モンゴル教区はモンゴルの首都ウランバートルにあります。そこには６つの教会と 2,177 名の信徒がいます。

- モンゴルの人口は 309 万 5,000 人です。モンゴル人の 1,422 人に一人が教会員となります。